

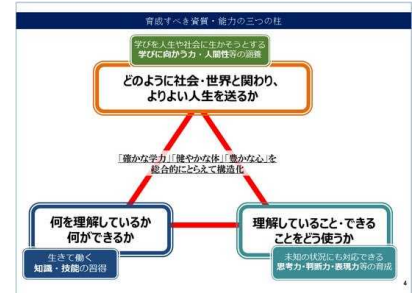
※ 本記事はブログ記事として提供しています。その範疇のものとして捉えて下さい。

新・学習指導要領時代の「目標」の立て方

今回の学習指導要領改訂は、「確かな学力」「豊かな人間性」「健やかなからだ」からなる「生きる力」を育てる仕組みが分かりにくかったという反省に基づいて、育成をめざす資質・能力（学校教育が育てるべきもの）が下図の3つの柱に整理されました。また、その指導方略として「主体的・対話的で深い学び」を使うということになりました。

育成をめざす資質能力の3本柱を意識して今回の支援計画を書けますか？

育成を目指す資質能力は以下の①②③の3つから成り立っていて、それを実現させると、学校の存在意義である「子どもに『生きる力（知・徳・体）』をつける」が達成されることとなります（先生であるボクやアナタの最終目標は「子どもに生きる力を涵養すること」ですからね）。ですので、この3本柱にそって3年目標も年間目標も半期目標も単元目標も本時案も目標立てをしていくこととなります。以下、「プランB（前期）にどんなことが書けば良いのか」を説明していきます。



①（社会の中で生きて働く）知識及び技能の目標はこんな感じ

説明⇒例えば、「これは赤。これは青。」「両足ジャンプでハードルを越える」「タタタの拍打ちをする」といったような教室の中、学校の中でその成果が留まる『単なる知識・技能』についての目標は、「はじめの一步」の扱いになります。（記述の具体性の基準は裏のコラム参照）。そして、今回の学習指導要領ではその基礎的な学力（知識・技能）の習得の後に、その学力は「考えること（思考）・決めること（判断）・伝え合うこと（表現）」の元手になる、学校の外でも使える「社会の中で生きて働く知識・技能（社会に出ても考えたり、決めたり、伝え合ったりしていく際に使える元手）」にしていくことが求められています。知識や技能は「元手（もとで）」になるんです。

②（未知の状況にも対応できる）思考・判断・表現力の目標はこんな感じ

説明⇒対話の中で「知識と知識、技能と技能をくっつける」「知識を大きくする」。その中で「意味や経験、価値、重みにつながっていく」ことをねらった目標になります。例えば、「そういうやり方があったか!」と友達のやり方を見て気づいて自分の行動を変えとか、「そういう伝え方があったか」と友達のコミュニケーションを見て、自分もやってみるとか。カードコミュニケーションのバリエーションを拡げて、伝えて、嬉しい、楽しい、もっとしたい…なんてのも思考・判断・表現を使って未知な状況を切り拓く目標になりますよね。

③（学びを人生や社会に生かそうとする）学びに向かう力・人間性の涵養の目標はこんな感じ

説明⇒学んだことが自分の人生における意味や価値、重みや今後の方向性につながっていくという段階の目標です。例えば「私は堅実に仕事をするを大切に生きていきたい!」とか、「ボクは人に優しくしながら生きていきたいんだ!」とか。今までの教育はとかく外面から見える学力や技能などに着目しがちでしたが、この観点は内側の成長、内的な変化、言い換えるならば人としての心の成熟もねらうものです。なので行動から見取ることはできないこと「も」あります（学習指導要領内にも書いてあります）し、人間の内的な変化は1時間扱いの授業案ではとても見て取ることができないので、これまで以上に年間指導計画や単元計画が大切になり、その中でこの観点を目標だてすることになります。

★ 旧学習指導要領の2つの反省に基づいた新学習指導要領の改善ポイント

新しい学習指導要領になるにあたって、前の10年の反省事項は

I 学校教育が学校の外に出ると大して使うことができない「単なる知識や技能」の獲得に終始してしまったこと

II 「生きる力」の涵養を学校教育の到達点としながらも、そこに至る指導方法（やり方）を示せずにいたこと

です。その改善の方法として登場したのが「主体的・対話的で深い学び」であり、「主体的・対話的で深い学び」の仕組みの中で①②③という育成を目指す資質・能力を育てるという全体の構造になっています。